

## 基準 6 教育の成果

### (1) 観点ごとの分析

6 - 1 教育の目的において意図している、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、教育の成果や効果が上がっていること。

観点 6 - 1 - : 大学として、その目的に沿った形で、教養教育、専門教育等において、課程に応じて、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等についての方針が明らかにされており、その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われているか。

#### 【観点到る状況】

学則第 2 条に大学の目的を掲げ、各学部及び研究科では、身につける学力、資質・能力や養成しようとする人材像についての方針に基づき、教育理念・教育目標及びアドミッション・ポリシー（前述資料 4 - 1 - - A）を作成している。これらは学部案内、ホームページ、募集要項等（前述資料 4 - 1 - - C）に明示し、また、入試説明会や入学後のオリエンテーション等で説明している。

教育の達成状況の検証・評価は、FD 委員会や教務委員会等（別添資料 6 - 1 - - 1）で学生の就職・進学状況等の、実績を踏まえながら改善策を検討し、それを実行する PDCA サイクルを確立している。

この他、工学部では JABEE 認定（前述資料 5 - 2 - - B）により教育の達成状況を検証している。具体的には、GPA・修得単位表に基づいた指導を実施している。水産学部では ISO 教育システム（前述資料 5 - 2 - - C）を開発しており、人材養成目標を分野ごとに定め、達成状況を検証している。

優秀な学生を表彰する制度として、鹿児島大学稲盛賞や鹿児島大学工業倶楽部賞、その他学部独自の賞などを設け、学生の勉学等の意欲向上を促すとともに、その選抜に学生の達成状況を反映させている。（別添資料 6 - 1 - - 2）

#### 【根拠資料欄】

別添資料 6 - 1 - - 1	「授業評価アンケート」の実施状況と結果分析（教育センター年報 No. 3）
別添資料 6 - 1 - - 2	工業倶楽部賞・稲盛賞の受賞学生決定（鹿大ジャーナル No. 174） 医歯学奨励賞（大学院医歯学顕彰内規）

#### 【分析結果とその根拠理由】

各学部・研究科の目的等に基づき、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等を具体的に明示し、人材育成の方針を策定の上、カリキュラム編成している。これは、入学時オリエンテーション等で説明し、達成状況は、進学・就職状況等の実績を踏まえながら、各学部・研究科で検証している。

そのほか、学部・研究科の目的に沿った形で、JABEE 認定や ISO 教育システムの手法を取り入れその仕組みの中で、到達度の検証等を実施している。特に水産学部の ISO 教育システムは 17 年度特色 GP にも採用されている。加えて大学独自に表彰制度を設け、勉学等の意欲向上を促している。

以上から大学として養成しようとする人材像等の明示、及び達成状況の検証・評価については適切に行われている。

観点 6 - 1 - : 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

### 【観点に係る状況】

学士課程では、18年度実績（別添資料 6 - 1 - - 1）で全体として、休学率が、2.4%、退学率が、1.6%となっている。就職状況（18年度実績）（資料 6 - 1 - - A、別添資料 6 - 1 - - 2）は、卒業生 1,991 名の中で、就職希望者数 1,177 名のうち就職者は 1,078 名（91.6%）である。

大学院課程では、全体として、18年度実績で休学率が、10.0%、退学率が、5.7%となっている。修了者 564 名の中で、就職希望者数 408 名のうち就職者は 374 名（91.7%）である。

資格試験等の取得率及び合格率に関しては、18年度、教育学部の教員免許取得、95.3%、医学部の医師国家試験、83.3%、保健学科の保健師 100%、助産師 100%、看護師 97.5%、理学療法士 100%、作業療法士 95.2%、歯学部の歯科医師国家試験、90.1%、農学部の獣医師国家試験、73.1%とそれぞれなっている（別添資料 6 - 1 - - 3、別添資料 6 - 1 - - 4）。

大学院課程では、博士前・後期とも、国内外の学会での発表や、学会誌への掲載を推奨しており、研究科によっては、修了要件として、査読付き論文数等を規則（申し合わせ）に明示している。

### 資料 6 - 1 - - A

鹿児島大学概要（P43-44/卒業（修了）数・就職状況/学位授与状況）	
資料 6 - 1 - - A	資料 6 - 1 - - A

（出典 鹿児島大学概要）

### 【根拠資料欄】

別添資料 6 - 1 - - 1

休学・退学・除籍の理由別年度分布（平成 16～18 年度）

別添資料 6 - 1 - - 2

卒業（修了）数、就職状況・学位授与状況/奨学生状況（鹿児島大学概要）

- 別添資料 6 - 1 - - 3 卒業（修了）者の進路状況（平成 19 年 4 月 1 日現在）
- 別添資料 6 - 1 - - 4 医師国家試験等合格率一覧、教員就職状況（平成 19 年 5 月 1 日現在）

【分析結果とその根拠理由】

休学・退学者に関しては少ない数ではない。理由としては、基本理念に基づき各学部、研究科で多様な人材を受け入れていることが影響している。それゆえ、海外留学、進路の模索、長期語学研修、経済上の理由（社会人の場合）経済的理由等、多様な要因によるものである。

資格取得率等は、全国の他大学と比べて相応の水準にあるといえるが、今後も引き続き取得率向上をめざした措置を講じる必要がある。

就職率は、就職希望者に対する割合で見た場合、全国の他大学と比較しても一定以上の水準は保っている。以上から、大学全体として教育の成果や効果は相応の水準に達している。

観点 6 - 1 - : 授業評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点到に係る状況】

中間授業アンケート(資料 6 - 1 - - A)、授業評価アンケートを各学部及び教育センターで継続的に実施し、この結果を学生の要望として講義に反映させ、また教育システムを改善するために利用している（前述別添資料 6 - 1 - - 1）。

授業中間アンケートでは、当該期の講義の進捗具合や学生の理解度、要望を記述させて、各教員にフィードバックして、次回以降の講義の改善に役立てている。さらに各学期終了時の授業評価アンケートでは、講義全体に関して学生の評価を受けている。これらのアンケート調査の結果では、概ね教育効果が得られたと判断されている。また、授業のあり方でも学生の満足度は高く、総合的満足度に関しても、概ね高い値となっている。

資料 6 - 1 - - A

中間授業アンケート様式

平成 19 年度前期

中間授業アンケート

学生の皆さんへ、  
 学期中の授業アンケートに協力してください。これは教員が授業をより良く改善するための学習とするものです。この授業のこれまでで無理の点、改善してほしいところがあれば、必ずこの欄にチェックしてください。また、授業中より授業で感じた点、よく理解できなかった点、その他の質問や要望等も自由に記述してください。  
 なお、このアンケートは成績には一切関係ありません。保護者の方にも注意です。

氏名 \_\_\_\_\_  
 授業名 \_\_\_\_\_  
 教員名 \_\_\_\_\_  
 所属名称 \_\_\_\_\_

この授業で改善してほしいところがあれば、改善項目の欄にチェックしてください

講義の進捗が早い  
 授業（手書き、PPT、OHP等）の作りやすさ  
 授業の構成（シラバスと対応したかどうか）  
 授業の進度（  速すぎる  遅すぎる ）

○ これまでで授業での理解度や満足度、今後の授業で学びたいことについて、自由に書いてください。その他、授業に関する質問・要望等があれば書いてください。

（出典 「学生による授業評価アンケート」）

## 【根拠資料欄】

なし

## 【分析結果とその根拠理由】

学生の意見聴取の機会、全学的なFD委員会が行う授業評価のアンケートによって確保されている。教育効果や、授業の満足度について概ね高い値が得られており、大学が意図する教育の成果や効果は上がっている。

観点6-1-1 : 教育の目的で意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果について定量的な面も含めて判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

## 【観点到係る状況】

学士課程は、多様な学部で構成され、それぞれ養成しようとする人材像等が異なるため、社会に送り出す人材も多岐にわたっている（資料6-1-1-A、別添資料6-1-1-1）。

学士課程では就職希望者の就職率は、例えば教育学部では、82.6%、農学部では95.8%、大学全体として91.6%の割合を占めている。本学は総合大学として、それぞれ就職先は多岐にわたっているが、法文学部では金融業が多く、工学部では製造業が多くなっている。大学院に進学する者は23.6%となっている。

大学院課程では、高等教育機関を始めとして多様な就職先があり、本学で学んだ専門性を生かして高度な専門的職業に就くものが多い。進学については本学の博士後期課程に進学する者、他の大学院へ進学する者、海外の大学院へ進学する者など様々である。

## 資料6-1-1-A

就職状況（平成19年5月1日現在）

（出典 JOB HUNTING GUIDE：鹿児島大学就職支援ガイドブック）

## 【根拠資料欄】

別添資料6-1-1-1

就職状況（鹿児島大学就職支援ガイドブック2007）



## 【根拠資料欄】

別添資料 6 - 1 - - 1 教育の成果・効果の検証（平成 19 年 3 月）

## 【分析結果とその根拠理由】

卒業生と就職先のアンケート結果から、多くの卒業生が教育方針を理解し、専門的な知識や技術を身に付け、本学の教育内容に満足し、就職先からも本学の教育を評価する結果が得られている。

## ( 2 ) 優れた点及び改善を要する点

## 【優れた点】

学生の意欲向上等を目的として、大学独自の表彰制度（鹿児島大学稲盛賞、鹿児島大学工業倶楽部賞等）を設けており、毎年優れた成果を挙げた学生を表彰している。

教育の成果を検証するために、学生、就職先へのアンケート等、卒業後の追跡調査を行い、今後の教育組織体制や教育改善への参考とし、継続的に学生や就職先のニーズを調査している。

## 【改善を要する点】

特になし

## ( 3 ) 基準 6 の自己評価の概要

大学が養成する人材像は、学則やアドミッション・ポリシーで明らかにし、各学部のホームページ等に明示するとともに新入生を対象としたオリエンテーション等で公開するとともに、体系的な教育課程を編成して、学生の教育にあっている。その達成状況を検証・評価するために、授業評価アンケートや卒業生及び就職先アンケートを実施し、授業改善や教育効果の分析を行うとともに、各種単位修得状況、進路状況についても分析を行っている。その結果、学生の満足度等を含め、教育の成果や効果は上がっていると判断できる。今後は収集した意見や情報をもとに、さらなる評価システム作りを行う必要がある。なお、教育成果の達成度の検証方法として、部局によっては ISO の手法を用いているところもあり、加えて大学全体としても、本学独自の表彰制度なども用いているなどの工夫を行っている。